

山形の歴史文化ロードを歩きながら

館長 石垣 立郎

今春から、山形市内を歩く機会が増えました。博物館を起点に、見るべきところが多くあり、楽しみです。霞城公園内では、土塁上に残された桜の老木が美しい花と緑を見せてくれますし、山形市郷土館「済生館」の建築やローレツ博士ゆかりの医学資料などが興味深く、山形城遺構の復元状況なども、本丸への橋や石垣、東大手門の展示など、想像を刺激します。

東口から公園を出れば、山形美術館や最上義光歴史館があり、昨年大河ドラマ「天地人」で脚光を浴びた最上義光ゆかりの展示を見ることができます。さらに、山形一小内には「まなび館」が開館し、代表的な物産を紹介するほか、山形市所管の考古遺物や南山学校をはじめとする教育資料が多く展示されています。

七日町通りを北進すると、旧県庁である山形県郷土館「文翔館」にぶつかります。この復元の見事さは感嘆するばかりですし、本館の弱点である昭和末～平成の展示内容が充実しており、補完する関係になっているようです。また、文翔館議場ホールではしばしば室内楽の演奏会などが開かれ、プロの音楽家の間でも貴重な演奏会場とし

て知られているとのこと。保存活用のあり方として、嬉しいことです。

文翔館から東に上ると、県立図書館・遊学館があり、さらに東上すると、旧師範学校本館・教育資料館が美しい姿を見せてくれます。館内の歴史的な教育資料

は興味深いものですが、近年は熱心な藤沢周平ファンが遠方から訪れるのだとか。残念ながら、藤沢周平が通った映画館はだいぶ姿を変えてしまいましたが、御殿堰の復元

と蔵の再利用で、ほっと一休みできる場となっているようです。

山形市を離れ、県内各地の博物館等の文化施設を巡る楽しさもあります。これらの歴史文化ロードを巡る楽しみの中で、県立博物館が果たすべき背骨の役割を思うとき、総合博物館としての展示の価値を絶えずリフレッシュし続けることの意義を再確認したところです。



山形県立博物館教育資料館開館 30 周年記念展案内「三島通庸と洋風(ハカ)学舎-近代やまがたの学校-」7/17-9/26

本展では、初代山形県令・三島通庸の教育分野における業績に光を当てながら、本県において近代教育が確立される道筋をたどります。近代教育の黎明期であった明治の学校と教育を振り返り、「教え」と「学び」の原点を探るものです。

本展は、1「盛大ナル学校」・2「小学校ことはじめ」・3「『教え』

と『学び』の道具(モノ)たち」の3部構成になっています。第1部では、鶴岡朝暘学校や山形県師範学校など、三島県令の教育施策を象徴する学校建築に関する実物資料や写真を紹介しています。第2部では、草創期の学校制度や運営に関する資料を展示しています。第3部では、明治時代につかわれた

掛図、教科書など「教え」と「学び」の道具に関する資料を紹介しています。



展示解説会①7/17②8/7③9/19PM1:30

【展示資料紹介■教育■掛図・減算九九図】

全国に小学校がつくられた明治時代の初期、教室では西洋の近代的な教育法がとり入れられました。一人の先生がたくさんの生徒に同じことを教える一斉教授がその特徴です。この時代には、教科書はまだ教室の各生徒には行きわたらず、掛図をつかった授業が盛んにおこなわれていました。

本資料は、縦 70 cm × 横 60

cm、明治 8 年(1875)に文部省から発行された算術(いまの算数)の掛図です。「減算」とは引き算のことで、一から九までの引き算を教えるものです。

この表はどうみたらよいのでしょうか。最上段横列の数字は引かれる数、右縦列が引く数をあらわしています。上列の右から横に、「二に一減(げん)の一」、「三に一減の二」、「四に一減の

三」というように読みます。



企画展報告 「やまがたの人形展」 2010年5月22日(土)～7月4日(日)

近年山形県では、「やまがた雛のみち」と称して時代雛を展示する艶やかな雛人形展が盛んに行われています。一方、山形県の風土の中で、様々な土人形も作り続けられてきました。この素朴な人形は、人々の身近にあり、心の安らぎを与えてくれます。この山形の人形の持つぬくもりを広く知っていただけたらと思い「やまがたの人形」を企画しました。展示会をご覧になった方のアンケート結果によると、県内・県外の来館者の割合

はほぼ半々でありました。展示会を知ったきっかけは、半数が「来館して」ですが、「チラシ・ポスター」「ホームページ」「公共のお知らせ」も各1割と、ある程度広報の効果もあったと思われませんが、さらに広報の工夫が必要と感じます。また展示会の内容や方法などについて、「とても良かった」「良かった」で9割に達しました。「あまり良くない」とした方から、展示方法の工夫や、説明文をもっと詳しく等の指摘がありました。今回来館されア

ンケートにご協力いただいた方々に感謝申し上げますとともに、今後の博物館活動の改善に活用させていただきます。



◎関連事業●展示解説会①5/22②6/5●講演

および実演会相良隆氏(相良人形七代目)

5/22●館長学芸員講座7/3(秋葉学芸員)

企画展案内 「縄文のキセキー半世紀の時を越えてー」 2010年10/9(土)～12/5(日)



西ノ前遺跡出土土偶(縄文ヴィーナス)

昨年度より、国の考古資料活用促進事業の一環として奈良国立博物館の協力で準備を

進めてきました。この度、奈良国立博物館収蔵の、本県遊佐町杉沢遺跡から出土した土偶が50数年ぶりに里帰りできることになりました。また、合わせて縄文時代後・晩期の県内資料を一堂に展示するとともに、県内に完形の遮光器土偶がないことから、岩手県立博物館のご厚意で、豊岡遺跡の土偶を展示します。なお、昨年度、大英博物館で行われた「土偶展」に出品された本館収蔵の西ノ前遺跡の土偶も展示する予定です。

開催にあたり、借用などにかかわり奈良国立博物館や岩手県立博物館など、御協力をいただいた関係各位、御指導賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

I 記念講演会①10/16『東北地方の縄文時代-後晩期の土偶-』;財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター金子昭彦氏②11/6 The Development and Diversity of "DOGU"土偶の発生と成長、そして"かたち"の変化;文化庁 美術学芸課 原田昌幸氏

II 展示解説会①10/9②10/31③11/27

III 12/4 学芸員講座(押切学芸員)

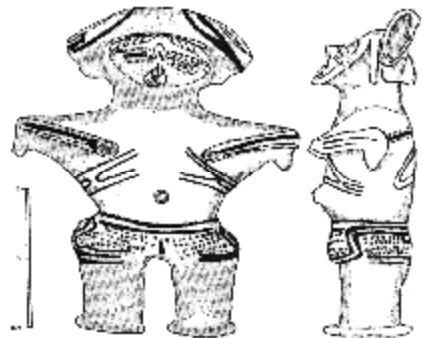
山形の縄文後晩期の土偶

【I II III全てPM1:30～】



山形県遊佐町杉沢遺跡遠景

【展示資料紹介■考古■釜淵土偶】



*会田容弘 1979「東北地方における縄文時代終末期以降の土偶の変遷と分布」『山形考古』3巻2号より

真室川町の釜淵C遺跡は、JR釜淵駅から南に800mに位置し、真室川左岸に広がる水田地帯にあります。この土偶の発見されたようすが『真室川町史』(昭和40年)に詳しい。大正4年の春、地元の農家の方が自身の水田を耕していた折、鋤の先に何物かぶつかり、注意して掘り起こしてみると人形のようなものがでてきました。地蔵様と

思い、仏壇に祀っていたところ、ちょうど他の家の法事に来ていた当時の正源寺住職が交渉の末、その「地蔵様」をもらいうけたと書かれています。その地蔵様の正体は土偶だったわけですが、縄文時代晩期末の完形土偶で多くの考古学雑誌や美術誌を賑わすことになりました。今回は複製品を展示します。

今回の展示に関わり正源寺の皆さまには大変お世話になりました。

企画展報告 「貝の世界-加藤繁富コレクション-」 2010年3月16日(火)～5月9日(日)

2005年に最上郡舟形町出身の加藤繁富氏より貝類標本の寄贈を受けました。これらは、膨大な同氏のコレクションの中から選び抜かれたもので、大きさや色、形などが多岐に渡っています。コレクションの整理作業が終了したことを機に、その一部を展示しました。とくに、今回の

展示では、海産を中心にさまざまな場所に生育している貝類の多様性を紹介しました。

貝は身近できれいなものが多く、変化に富むことから来館者に好評でした。なかでも注目を集めたものは、オオジャコガイやミドリパプアなどのワシントン条約掲載種、珍しいオキナエビ

スガイやクマサカガイ、貨幣として使われたタカラガイ、さらに猛毒のイモガイなどでした。



団体来館紹介(2月～7月:69団体)**【学校関係】**

山形市:(幼稚園) あおぞら幼稚園/こまくさ学園/竹田西部幼稚園/双美保育園 (小中学校) 蔵王第三小/第九小/滝山小/楯山小/ふじかけげんきっ子クラブ/第一中/第八中 (高校) 県立霞城学園高 (大学) 山形大学/東北芸術工科大学 2 団体

天童市: 荒谷小

山辺町: 山辺小

中山町: 豊田小

寒河江市: 幸生小/寒河江小/田代小/中部小/南部小/西根小

河北町: 西里小/谷地南部小

朝日町: 大谷小/宮宿小

大江町: 三郷小

村山市: 楯岡小

東根市: 大富小/小田島小/高崎小

尾花沢市: 尾花沢小/鶴子小/萩袋小/明德小/高橋小

大石田町: 大石田小/亀井田小/横山小

新庄市: 萩野小/升形小/本合海小/泉田小

真室川町: 真室川小

米沢市: 窪田小/東部小/南部小/広幡小/松川小

川西町: 東沢小/玉庭小/中郡小

鶴岡市: 朝陽第一小/鼠ヶ関小

酒田市: 県立酒田北高



オーストラリア: スワンヒル市短期交換留学生(中学・高校)

宮城県: 石巻市立山下中/仙台市立西山中/宮城学院中

【その他】8 団体

山形県立博物館友の会のご案内

● 会員種別

個人会員/団体会員/家族会員

● おもな活動★会員の学習と交流(講演会/学習会/会報等の発行) ★博物館との共同企画展の開催★博物館への協力(教育活動/資料調査/展示/広報活動/環境美化の協力)★地域への貢献(出版物刊行/販売)

● 会員になると★会員証の発行★友の会会報・催事案内の配布★その他の特典があります。

※詳しくは博物館 HP をご覧ください。

催物案内【詳しくは下記へお問い合わせ下さい】(8/23～9/2 は燻蒸消毒期間のため休館です)

7/17～9/26 山形県立博物館教育資料館開館 30 周年記念展
三島通庸と洋風(ハイカラ)学舎-近代やまがたの学校-

7/17～8/22 自由研究相談月間

8/21 サイエンスカフェ in 山形③化石で地球の歴史を知る

9/18 植物観察会②(第 3 回は H23.3/19 です)

10/3～ミクロの世界入門講座;全 3 回①10/3②10/24③10/30

【要申込;受付 9/7～定員に達し次第、受付終了します】

10/21- 古文書講座入門編/中級編【要申込;9/3～10/7 必着】

10/9～12/5 企画展縄文のキセキ-半世紀の時を越えて(考古資料活用促進事業:協力奈良国立博物館)記念講演会
①10/16 講師:岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター;金子昭彦氏②11/6 講師文化庁美術学芸課;原田昌幸氏

10/23～考古学講座『最上川と縄文むら』全 5 回:講師;

(財)山形県埋蔵文化財センター,新庄市立日新中学校

11/3 無料開放日(催事;体験昔のあそび昔の道具)

12/18～H22.2/13 共同企画展 私の宝物(博物館友の会との共催)

12 月 館長学芸員講座

12/ 4 山形の縄文時代後晩期の土偶(押切学芸員)

12/11 化学をめぐるおもしろ雑話(石垣館長)

12/25 お茶と天目碗(山口学芸専門員)

山形県立博物館では H22 年度 48 名のボランティアの皆様が活動しています。展示室の案内をご希望の場合はお気軽にお声がけ下さい。



山形県立博物館

〒990-0826 山形市霞城町 1 番 8 号

TEL023-645-1111 Fax023-645-1112

山形県立博物館教育資料館(分館)

〒990-0041 山形市緑町二丁目 2-8

TEL023-642-4397 Fax023-642-4403

開館時間 9:00-16:30(受付 16:00 まで)

ホームページもご覧ください

<http://www.yamagata-museum.jp/>